

## 現代文化分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE501	文化生成論-21A	2	1.0	1・2	春AB	火3	人社A721	濱田 真	18世紀から現代に至るドイツにおいて文化の問題がどのような角度から論じられてきたかを、主要な思想家(ヘルダー、ゲーテ、ニーチェ、カッシーラー、ベンヤミン、ガダマー等)の原典や文化理論についての研究書(ブルーメンベルク、ベーム、アスマン)を精読しながら考察する。特に異文化理解の問題、多文化主義と翻訳の問題、文化と言語の相互関係の問題などを取り上げて、文化生成の動的なあり方について考える。解釈学、言語論、翻訳論の諸議論を手がかりにして多角的に考察を進める。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 OABAJG1と同一。
01DE502	文化生成論-21B	2	1.0	1・2	秋AB	火3	人社A721	濱田 真	啓蒙主義、古典主義、ロマン主義の時代のドイツにおいて文化形成の問題がどのような角度から論じられてきたかを、主要な思想家(ヴィンケルマン、ヘルダー、ゲーテ、シラー、シェリング等)の原典や文化理論についての研究書を精読しながら考察する。当時の社会的・思想的背景を踏まえて、特に文化と芸術、古代と近代、文化と自然といった問題について考える。解釈学、文化記憶論、感性論、芸術論の諸議論を手がかりにして、多角的に考察を進める。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 OABAJG3と同一。
01DE503	文化生成論-21IA	2	1.0	1・2					近代ドイツを中心に、文化・自然・芸術をめぐる諸問題について、主要な思想家(ヴィンケルマン、ヘルダー、ゲーテ、シラー、シェリング等)の原典や文化理論についての研究書を精読しながら考察する。当時の文化的・思想的背景を踏まえて、特に歴史哲学、自然哲学、芸術哲学などを中心に考察を進める。解釈学、文化記憶論、感性論、芸術論の諸研究を手がかりにして、多角的に考察を行う。	OABAJG5と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE504	文化生成論-21IB	2	1.0	1・2					近代から現代に至るドイツにおけるさまざまな文化論を、思想家(ヘルダー、ニーチェ、カッシーラー、ベンヤミン、ガダマー等)の原典や文化理論についての研究書(ベーム、アスマン)を精読しながら考察する。特にイメージ・図像を介した解釈の問題が文化の形成や変容にどのような位置を占めているのかという問題について、解釈学、言語論、翻訳論、形象学等の諸議論を手がかりにして多角的に考察を進める。	OABAJG7と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE505	文化動態論(1-2) IA	2	1.0	1・2	春AB	水3	人社A721	清水 知子	本講義では、変幻するグローバル社会の多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、現代文化を読み解くうえで必要な国内外の理論的文献を講読する。とくにポストメディア時代における芸術と社会の関係について考察し、批判的な思考力を養う。授業は演習形式で行う。	西暦偶数年度開講。 OABAJD1と同一。
01DE506	文化動態論(1-2) IB	2	1.0	1・2	秋AB	水3	人社A721	清水 知子	本講義では、変幻するグローバル社会の多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、現代文化を読み解くうえで必要な国内外の理論的文献を講読する。とくにポストメディア時代における具体的な社会的事象とその表象をめぐる文化のダイナミズムを精緻に考察する。授業は演習形式で行う。	西暦偶数年度開講。 OABAJD3と同一。
01DE507	文化動態論(1-2) IIA	2	1.0	1・2					本講義では、グローバル社会の多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、現代文化を読み解くうえで必要な国内外の理論的文献を講読する。とくにメディア理論、芸術理論をふまえながら欧米の具体的な社会的事象とその表象をめぐる文化のダイナミズムをより精緻に考察する。授業は演習形式で行うが、ディスカッションを重視し、それを通して自らの思考を的確に表現できる力を養成する。	OABAJD5と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE508	文化動態論(1-2) IIB	2	1.0	1・2					本講義では、グローバル社会の多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、現代文化を読み解くうえで必要な国内外の理論的文献を講読する。とくにポストメディア時代におけるメディア論や芸術論の関係について、具体的な社会的事象とその表象をめぐる文化のダイナミズムをより精緻に考察し、批判的な思考力を養う。授業は演習形式で行い、ディスカッションを通して自らの思考を的確に表現できる力を養成する。	OABAJD7と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE509	文化動態論(2-2)IA	2	2.0	1・2	春AB	木3,4	人社B615	山口 恵里子	この授業では、人間の創造行為を芸術と人類学の接点を模索するイメージ人類学のアプローチから再考し、そのアプローチを用いた芸術文化研究の可能性を探る。この探究の根底にあるのは、「イメージが放つ効力とはどのように生み出され、受容され、そして伝承されていくのか」という問いである。この問いに答えるために、イメージ人類学が提唱されるに至った学問的背景を把握しつつ、関連文献を講読する。文献研究を通して、芸術研究と人類学を結び多様な視点を獲得し、イメージ、モノ、身体、文化、記憶、メディア、芸術等を研究する柔軟な思考法を習得する。本授業で取り上げる「芸術」は、いわゆる「純粋芸術」の作品だけではなく、日常品や、形の残らないもの、不完全なもの含まれる。それらの「日常の美学」や「不完全なるものの美学」も追究する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE510, OABAJK1と同一。
01DE510	文化動態論(2-2)IB	2	2.0	1・2	春AB	木3,4	人社B615	山口 恵里子	この授業では、人間の創造行為を芸術と人類学の接点を模索するイメージ人類学のアプローチから再考し、そのアプローチを用いた芸術文化研究の可能性を探る。この探究の根底にあるのは、「イメージが放つ効力とはどのように生み出され、受容され、そして伝承されていくのか」という問いである。この問いに答えるために、イメージ人類学が提唱されるに至った学問的背景を把握しつつ、関連文献を講読する。文献研究を通して、芸術研究と人類学を結び多様な視点を獲得し、イメージ、モノ、身体、文化、記憶、メディア、芸術等を研究する柔軟な思考法を習得する。本授業で取り上げる「芸術」は、いわゆる「純粋芸術」の作品だけではなく、日常品や、形の残らないもの、不完全なもの含まれる。それらの「日常の美学」や「不完全なるものの美学」も追究する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE509, OABAJK1と同一。
01DE511	文化動態論(2-2)IIA	2	2.0	1・2					イメージ人類学のアプローチを具体的な芸術文化研究に応用する。本授業では、いわゆる「純粋芸術」のみならず、美術史研究では取り上げられることのなかった装飾や人工的なモノ(宗教的な奉納物、日常品等)、ファッション、インテリア、ダンスなども考察の対象とし、そのようなものの中に潜まれるイメージの力を問題にする。文化的にも歴史的にも多様な題材を取り上げ、イメージ人類学の射程を広げる試みを行う。文化的な所産物である日常品が生み出す「日常の美学」、「完全」ではないものが持つ「不完全なもの美学」にも迫りたい。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	01DE512, OABAJK3と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE512	文化動態論(2-2)IIB	2	2.0	1・2					イメージ人類学のアプローチを具体的な芸術文化研究に応用する。本授業では、いわゆる「純粋芸術」のみならず、美術史研究では取り上げられることのなかった装飾や人工的なモノ(宗教的な奉納物、日常品等)、ファッション、インテリア、ダンスなども考察の対象とし、そのようなものの中に潜まれるイメージの力を問題にする。文化的にも歴史的にも多様な題材を取り上げ、イメージ人類学の射程を広げる試みを行う。文化的な所産物である日常品が生み出す「日常の美学」、「完全」ではないものが持つ「不完全なもの美学」にも迫りたい。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	01DE511, OABAJK3と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE513	文化構造論-2IA	2	2.0	1・2	春AB	金4,5	人社A721	佐藤 吉幸	現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な基礎的な理論を習得する。本授業ではとりわけ、マルクス、フロイト、アルチュセール、フーコー、ドゥルーズ=ガタリなど、19世紀から20世紀に至る社会理論、文化理論に関する重要文献を講読し、近代の社会、文化構造を批判的に分析できる能力を養うことを目的とする。本授業は演習形式で行うこととし、発表とディスカッションを通じて、批判的思考能力と論理的思考能力を養成する。	西暦偶数年度開講。 01DE514, OABAJC1と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE514	文化構造論-21B	2	2.0	1・2	春AB	金4,5	人社A721	佐藤 吉幸	現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な基礎的な理論を習得する。本授業ではとりわけ、マルクス、フロイト、アルチュセール、フーコー、ドゥルーズ=ガタリなど、19世紀から20世紀に至る社会理論、文化理論に関する重要文献を読解し、近代の社会、文化構造を批判的に分析できる能力を養うことを目的とする。本授業は演習形式で行うこととし、発表とディスカッションを通じて、批判的思考能力と論理的思考能力を養成する。	西暦偶数年度開講。01DE513, OABAUC1と同一。
01DE515	文化構造論-211A	2	2.0	1・2					現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な基礎的な理論を習得する。本授業ではとりわけ、バリバル、ランシエール、ネグリ=ハート、パトラーなど、現代の社会理論、文化理論に関する重要文献を読解し、現代の社会、文化構造を批判的に分析できる能力を養うことを目的とする。本授業は演習形式で行うこととし、発表とディスカッションを通じて、現代社会、現代文化に関する批判的思考能力を養成する。	01DE516, OABAUC3と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE516	文化構造論-211B	2	2.0	1・2					現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な基礎的な理論を習得する。本授業ではとりわけ、バリバル、ランシエール、ネグリ=ハート、パトラーなど、現代の社会理論、文化理論に関する重要文献を読解し、現代の社会、文化構造を批判的に分析できる能力を養うことを目的とする。本授業は演習形式で行うこととし、発表とディスカッションを通じて、現代社会、現代文化に関する批判的思考能力を養成する。	01DE515, OABAUC3と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE517	文化対照論-21A	2	2.0	1・2	春AB	木5,6	人社B615	対馬 美千子	この授業は現代文化研究を行う上で必要である現代文化を批評するための様々な視点について学ぶことを目的としている。授業では、主に思想・批評理論・文学の文献の講読を中心に、とくに現代文化の表象に関わる諸現象について様々な角度から考察する。受講者には、授業中の発表、授業の最後のレポートの提出が求められる、それらをもとに成績評価が行われる。授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、複合的理解力、批判的思考力を高めることを目標とする。また、この授業では学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。01DE518, OABAF1と同一。
01DE518	文化対照論-21B	2	2.0	1・2	春AB	木5,6	人社B615	対馬 美千子	この授業は現代文化研究を行う上で必要である現代文化を批評するための様々な視点について学ぶことを目的としている。授業では、主に思想・批評理論・文学の文献の講読を中心に、とくに現代文化の表象に関わる諸現象について様々な角度から考察する。受講者には、授業中の発表、授業の最後のレポートの提出が求められる、それらをもとに成績評価が行われる。授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、複合的理解力、批判的思考力を高めることを目標とする。また、この授業では学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。01DE517, OABAF1と同一。
01DE519	文化対照論-211A	2	2.0	1・2					この授業は現代文化研究を行う上で必要である現代文化を批評するための様々な視点について学ぶことを目的としている。授業では、主に思想・批評理論・文学の文献の講読を中心に、とくに現代文化の言語やイメージに関わる諸現象について様々な角度から考察する。受講者には、授業中の発表、授業の最後のレポートの提出が求められる、それらをもとに成績評価が行われる。授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、理解力、批判的思考力を高めることを目標とする。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	01DE520, OABAF3と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE520	文化対照論-211B	2	2.0	1・2					この授業は現代文化研究を行う上で必要である現代文化を批評するための様々な視点について学ぶことを目的としている。授業では、主に思想・批評理論・文学の文献の講読を中心に、とくに現代文化の言語やイメージに関わる諸現象について様々な角度から考察する。受講者には、授業中の発表、授業の最後のレポートの提出が求められる、それらをもとに成績評価が行われる。授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、理解力、批判的思考力を高めることを目標とする。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	01DE519, OABAF3と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE521	文化差異論-21A	2	1.0	1・2	春AB	金3	人社A721	竹谷 悦子	アメリカ文化のダイナミズムと不可分である文化的差異(人種、ジェンダー、地域、障害等)に注目する。国家の枠組みを一旦保留して、環太平洋という文化ネットワークのなかで、パブリックな領域とプライベートな領域を横断しながら、文化と力の関係を検証する。孤児をめぐる国際養子縁組のシステム形成など、環太平洋ネットワークを移動する「こども」を読み解く。毎回、発表ならびにディスカッションをとおして発信力と批判的思考力を養う。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 OABAJE1と同一。
01DE522	文化差異論-21B	2	1.0	1・2	秋AB	金3	人社A721	竹谷 悦子	アメリカ文化のダイナミズムと不可分である文化的差異(人種、ジェンダー、地域、障害等)に注目する。国家の枠組みを一旦保留して、環太平洋という文化ネットワークのなかで、パブリックな領域とプライベートな領域を横断しながら、「核」と文化の関係を検証する。広島・長崎とネバダ核実験場、核家族と核シェルター、宇宙開発と地下都市計画、などの共鳴を考察する。毎回、発表ならびにディスカッションをとおして発信力と批判的思考力を養う。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 OABAJE3と同一。
01DE523	文化差異論-21IA	2	1.0	1・2					アメリカ文学のダイナミズムと不可分である文化的差異(人種、ジェンダー、地域、障害等)に注目する。とりわけ、文学と視覚・聴覚文化、文学とモノ文化、文学と食文化などの相互交渉のなかで見えてくる文化的差異と規範の構築性を考察する。ロビン・バーンスタインによるScriptive Thingの方法論などを検証し、アメリカの人種(白人と黒人)をめぐる言説が、文化のなかで、人間とモノ(痛みを感じない人形)との関係として形成されていった歴史を論じる。毎回、発表ならびにディスカッションをとおして発信力と批判的思考力を養う。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	OABAJE5と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE524	文化差異論-21IB	2	1.0	1・2					アメリカ文学のダイナミズムと不可分である文化的差異(人種、ジェンダー、地域、障害等)に注目する。とりわけ、文学と視覚・聴覚文化、文学とモノ文化、文学と食文化などの相互交渉のなかで見えてくる文化的差異と規範の構築性を考察する。カイラ・ワザナ・トンブキンズのCritical Eating Studiesの方法論などを検証し、アメリカの人種(白人と黒人)をめぐる言説が、文化のなかで、人間とモノ(食べ物)との関係として形成されていった歴史を論じる。毎回、発表ならびにディスカッションをとおして発信力と批判的思考力を養う。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	OABAJE7と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE525	文化現象論-21A	2	1.0	1・2	春AB	火4	人社B615	江藤 光紀	この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。それを通じて、対象をより多面的に把握・理解する力を養う。	西暦偶数年度開講。 OABAJB1と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE526	文化現象論-21B	2	1.0	1・2	秋AB	火4	人社 B615	江藤 光紀	この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究し月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。またそれに基づいた論文執筆についての具体的なアドバイスなども行っていく。	西暦偶数年度開講。 OABAJB3と同一。
01DE527	文化現象論-21IA	2	1.0	1・2					この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。また限られた時間内で必要な情報を要約し、的確に伝えるプレゼンテーションの力も鍛える。同時にまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	OABAJB5と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年年度開講。
01DE528	文化現象論-21IB	2	1.0	1・2					この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。そうすることによって、自らの課題を明確に意識し、より大きな論文へとステップアップさせていくためのきっかけを作っていく。特に論理的な構成力を涵養することを重視し指導する。	OABAJB7と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年年度開講。
01DE537	異文化地域論(1-2) IA	2	1.0	1・2	春AB	火2	人社 B615	畔上 泰治, 中田 元子, 宮崎 和夫	この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ、政治や経済等の大きな変動に伴う社会と文化の変容をテーマにする。英語かドイツ語またはスペイン語で書かれた文献を用いて、受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行う。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。 西暦偶数年度開講。 01DE545, 01DE565, OABAJA1と同一。
01DE538	異文化地域論(1-2) IB	2	1.0	1・2	秋AB	火2	人社 B615	畔上 泰治, 中田 元子, 宮崎 和夫	この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ民族や異文化との摩擦・対立などをテーマにする。英語かドイツ語またはスペイン語で書かれた文献を用いて、受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行い、専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。 西暦偶数年度開講。 01DE546, 01DE566, OABAJA3と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE539	異文化地域論(1-2) IIA	2	1.0	1・2					この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ社会的・文化的マイノリティに関する諸問題を考察する。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な差異や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。01DE547, 01DE567, OABAJA5と同一。2020年度開講せず。西暦奇数年度開講。
01DE540	異文化地域論(1-2) IIB	2	1.0	1・2					この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ年齢や性など、習慣やアイデンティティの違いから生じる諸問題などのテーマを考察する。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの社会的・文化的な差異や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。01DE548, 01DE568, OABAJA7と同一。2020年度開講せず。西暦奇数年度開講。
01DE545	異文化地域論(3-2) IA	2	1.0	1・2	春AB	火2	人社 B615	畔上 泰治, 中田元子, 宮崎 和夫	この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ、政治や経済等の大きな変動に伴う社会と文化の変容をテーマにする。英語がドイツ語またはスペイン語で書かれた文献を用いて、受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行う。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。西暦偶数年度開講。01DE537, 01DE565, OABAJA1と同一。
01DE546	異文化地域論(3-2) IB	2	1.0	1・2	秋AB	火2	人社 B615	畔上 泰治, 中田元子, 宮崎 和夫	この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ民族や異文化との摩擦・対立などをテーマにする。英語がドイツ語またはスペイン語で書かれた文献を用いて、受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行い、専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。西暦偶数年度開講。01DE538, 01DE566, OABAJA3と同一。
01DE547	異文化地域論(3-2) IIA	2	1.0	1・2					この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ社会的・文化的マイノリティに関する諸問題を考察する。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な差異や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。01DE539, 01DE567, OABAJA5と同一。2020年度開講せず。西暦奇数年度開講。
01DE548	異文化地域論(3-2) IIB	2	1.0	1・2					この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ年齢や性など、習慣やアイデンティティの違いから生じる諸問題などのテーマを考察する。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの社会的・文化的な差異や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。01DE540, 01DE568, OABAJA7と同一。2020年度開講せず。西暦奇数年度開講。
01DE549	異文化交流論-2IA	2	1.0	1・2	春AB	水2	人社 A724	馬籠 清子	様々な国や地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てながら分析を進めていく。現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点が重要となるが、それぞれの文化や学問・芸術領域のダイナミックな通時の変化や、大きな影響力を持ち続ける各種伝統などにも、丁寧に注目していく。各年度の授業開始時に、担当教員がテーマや教材等を指定するが、受講生それぞれの興味や専門を柔軟に反映させられるような演習形式で展開していく。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。OABAJJ1と同一。
01DE550	異文化交流論-2IB	2	1.0	1・2	秋AB	水2	人社 A724	馬籠 清子	文化横断学IA同様、様々な国や地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てて分析を進めていく。また、現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点を大切にしつつ、それぞれの文化や学問・芸術領域の通時の変化や各種伝統にも丁寧に注目するという点も同じである。一方、文化横断学IAよりも、受講生それぞれの興味や専門を取り入れた視点から独自の分析を展開し、それを発表や文章を通して伝えるという点に力を入れる。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。OABAJJ3と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE551	異文化交流論-21IA	2	1.0	1・2					複数の国・地域の文化と学問・芸術領域を横断し、学際的な関係性に焦点を当てながら分析を進める。現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点を重視するが、それぞれの文化や学問・芸術領域のダイナミックな通時的変化や、大きな影響力を持ち続ける各種伝統などにも、丁寧に注目していく。各年度の授業開始時に、担当教員がテーマや教材等を指定するが、受講生それぞれの興味や専門を柔軟に反映させられるような演習形式で展開していく。同時にまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も実施する。	OBAJ5と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE552	異文化交流論-21IB	2	1.0	1・2					文化横断学IIAを発展させる形で、様々な国・地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てていく。また、現代的・共時的視点を大切にしつつ、それぞれの文化や学問・芸術領域の通時的変化や各種伝統にも丁寧に注目するという点は、文化横断学IIAと同じである。一方、文化横断学IIAよりも、受講生それぞれの興味や専門を取り入れた視点から独自の分析を展開し、それを発表や文章を通して伝えるという点に力を入れる。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	OBAJ7と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE561	科学文化論-21A	2	1.0	1・2	春AB	火6	人社A721	廣瀬 浩司	本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的な次元にまで遡って、意味生成の契機をどのように記述できるかを探究するための方法論を習得する。問題としては、文化はその生成の場においてどこまで感性的なものや生物学的なものに基礎付けられているのか、あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、感性的な要素や生物学的な要素がどのように作動しているかを考える。方法的には、メルロ=ポンティ、デリダ、レヴィナスらの現象学、ドゥルーズの思想、シモンソンやフォーコーのテクノロジーに関する議論を批判的に検討することによって、二一世紀の知のありかたにふさわしい方法論を模索する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 OBAJH1と同一。
01DE562	科学文化論-21B	2	1.0	1・2	秋AB	火6	人社A721	廣瀬 浩司	本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的・身体的な次元にまで遡って、そこにおける意味生成の契機をどのように記述できるかを探究するため、具体的な事例の分析方法を習得する。問題としては、文化はその生成の場においてどこまで感性的・身体的なものに基礎付けられているのか、あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、感性的・身体的な要素がどのように作動しているかを考える。具体的には、現象学による身体論や芸術(絵画、彫刻、映画、舞踏など)論を検討することによって、事例に則した分析方法を練り上げることを目指す。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 OBAJH3と同一。
01DE563	科学文化論-21IA	2	1.0	1・2					本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、身体の原初的な次元にまで遡って、感覚の次元のシンボル機能の契機をどのように記述できるかを探究するための方法論を習得する。問題としては、感性と言語、社会、諸制度を感性的なものがどのように基礎付けているかを、身体に定位して考察する。あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、身体の感性的な次元の気づきを働かせるにはどうすればよいかを考える。方法的には、メルロ=ポンティ、レヴィナスらの現象学的身体論、ドゥルーズの思想、シモンソンのイメージ論やフォーコーのテクノロジーに関する議論を批判的に検討することによって、二一世紀の文化的な諸現象を分析する方法を探る。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	OBAJH5と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE564	科学文化論-211B	2	1.0	1・2					本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的・身体的な次元にまで遡って、シンボル機能をどのように記述できるかを探究するための、具体的な事例の分析方法を習得する。問題としては、ある文化事象において感性的・身体的なものがどのように作動しているかを探究することによって、「文化」そのものの概念を実践的に刷新するような思考をどのように練り上げるかを考える。具体的には、現象学による身体論や芸術(絵画、彫刻、映画、文学作品、舞踏など)論を感性的文化論的な視点から検討することによって、事例に則した分析方法を練り上げることを目指す。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	OABAJH7と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE565	境域文化論-21A	2	1.0	1・2	春AB	火2	人社 B615	畔上 泰治, 中田 元子, 宮崎 和夫	この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ、政治や経済等の大きな変動に伴う社会と文化の変容をテーマにする。英語かドイツ語またはスペイン語で書かれた文献を用いて、受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行う。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。 西暦偶数年度開講。 01DE537, 01DE545, OABAJA1と同一。
01DE566	境域文化論-21B	2	1.0	1・2	秋AB	火2	人社 B615	畔上 泰治, 中田 元子, 宮崎 和夫	この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ民族や異文化との摩擦・対立などをテーマにする。英語かドイツ語またはスペイン語で書かれた文献を用いて、受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行い、専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。 西暦偶数年度開講。 01DE538, 01DE546, OABAJA3と同一。
01DE567	境域文化論-211A	2	1.0	1・2					この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ社会的・文化的マイノリティに関する諸問題を考察する。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な差異や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。 01DE539, 01DE547, OABAJA5と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE568	境域文化論-211B	2	1.0	1・2					この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ年齢や性など、習慣やアイデンティティの違いから生じる諸問題などのテーマを考察する。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの社会的・文化的な差異や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。 01DE540, 01DE548, OABAJA7と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE569	イメージ生成論-21A	2	1.0	1・2	春AB	火5	人社 A715	吉野 修	この授業では、言語・音声・映像・身体所作などによって表現されたもののある部分や断片が、それが置かれている文脈や全体性の安定性を揺るがしたり、部分的でありながら文脈や全体性に所属していないように思われる場合、そのような部分的な表現をイメージと定義して研究を行う。このような部分的イメージには、新しい意味や表現を生み出すという創造的な側面があるが、その具体例を文学や映像などによる作品の中に求め、イメージに関する文献を参照しながら論考する。導入的授業として、様々なテキスト・作品の講読や閲覧を中心にして、個々のイメージがどのような効果を持っているのかを具体的に把握することを目標とする。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 OABAJL1と同一。
01DE570	イメージ生成論-21B	2	1.0	1・2	秋AB	火5	人社 A715	吉野 修	イメージ文化学IAで考察されたイメージの諸相について、さらに理論的側面から研究を深める。部分的イメージは、それが置かれている文脈や全体性の安定性を揺るがしたり、文脈や全体性が取り込もうとする力に反発するように作動するが、そのような特性がどのように新しい意味や表現を生み出すのかという問題を表象論的に論考する。具体的には、イコノロジー、詩的想像力研究、文学理論、現代哲学などの分野の中でイメージに関係するテキストを取り上げて研究する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 OABAJL3と同一。



科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE571	イメージ生成論-21IA	2	1.0	1・2					この授業では、言語・音声・映像・身体所作などによって表現されたもののある部分や断片が、それが置かれている文脈や全体性の安定性を揺るがしたり、部分的でありながら文脈や全体性に所属していないように思われる場合、そのような部分的な表現をイメージと定義して研究を行う。このような部分的イメージには、新しい意味や表現を生み出すという創造的な側面があるが、その具体例を文学や映像などによる作品の中に求め、イメージに関する文献を参照しながら論考する。導入的授業として、様々なテキスト・作品の講読や閲覧を中心に、個々のイメージの部分性がどのような効果を全体性に及ぼすことになるのかを具体的に把握することを目標とする。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	OBAJL5と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。
01DE572	イメージ生成論-21IB	2	1.0	1・2					イメージ文化学IIAで考察されたイメージの諸相について、さらに理論的側面から研究を深める。部分的イメージは、それが置かれている文脈や全体性の安定性を揺るがしたり、文脈や全体性が取り込もうとする力に反発するように作用するが、そのような特性がどのように新しい意味や表現を生み出すのかという問題を表象論的に論考する。具体的には、ベケット(反象的表現)、ジョルジュ・デュテユイ(イコノロジー)、ガストン・バシュラール(詩的想像力研究)、ドゥルーズやレヴィナス(現代哲学)など、部分的イメージに関するテキストを取りあげて研究する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	OBAJL7と同一。 2020年度開講せず。 西暦奇数年度開講。

言語情報分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE411	言語情報論IIA	2	1.5	1・2					日本語のヴォイス(特に受動と使役)について、他言語との比較・対照をしながら考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH411と同一。 要望があれば英語で授業
01DE412	言語情報論IIB	2	1.5	1・2					春学期に引き続き、日本語のヴォイス(特に受動と使役)について、他言語との比較・対照をしながら考察する。	西暦奇数年度開講。 02DH412と同一。 要望があれば英語で授業
01DE419	異文化言語比較演習IIA	2	1.5	1・2					生成文法理論の理解を深めるために基本的文献を講読する。日本語、英語に焦点をあて、文や動詞句、名詞句構造に関わるテーマを扱う。	西暦奇数年度開講。 02DH419と同一。
01DE420	異文化言語比較演習IIB	2	1.5	1・2					共時的、通時的な観点から、日本語、英語を中心とした諸言語の文、動詞句、名詞句構造に焦点をあて、言語間の違いを類型論の立場から検討する。	西暦奇数年度開講。 02DH420と同一。
01DE423	異文化言語習得論IIA	2	1.5	1・2					外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのか探る。	西暦奇数年度開講。 02DH423と同一。
01DE424	異文化言語習得論IIB	2	1.5	1・2					外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。その応用としてリーディング能力獲得への英文読解指導法を提言する。さらに、理論と実践研究にかかわる諸問題を考察していく中で、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、外国語習得理論および英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザインについて学んでいく。	西暦奇数年度開講。 02DH424と同一。
01DE427	異文化言語教育評価論IIA	2	1.5	1・2					言語評価及びテスト作成の理論を学ぶ。授業評価や研究計画を立てる際に必要な知識を身につける。また、実際にさまざまな評価・統計手法を使えるように演習する。	教室: 人社棟A721 西暦奇数年度開講。 02DH427と同一。
01DE428	異文化言語教育評価論IIB	2	1.5	1・2					仮説検証型の研究を実施するための、さまざまな最新の統計手法を学ぶ。また、研究テーマを絞り、研究発表を行っていく。	教室: 文科系修士棟8B201 西暦奇数年度開講。 02DH428と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE429	異文化言語教育教材論IA	2	1.5	1・2	春ABC	水3	人社B615	久保田 章	英語教育用教材の分析、評価、開発に関して、理論と実践の観点から多面的に考察する。特に、B. Toml inson(2016)を中心に教材開発に関わる諸問題について議論する。	西暦偶数年度開講。02DH429と同一。
01DE430	異文化言語教育教材論IB	2	1.5	1・2	秋ABC	水3	人社B615	久保田 章	異文化言語教育教材論IAの学修を基盤として、さらに英語学習教材の作成、開発、評価に関わる諸問題について多面的に考察する。	西暦偶数年度開講。02DH430と同一。
01DE431	異文化言語教育教材論IIA	2	1.5	1・2					言語教材論の観点から、言語の習得と教授にかかる理論的、実践的研究に関する文献を講読し、問題点について議論する。特に認知的な研究を背景として、教材論の体系化をめざす。	西暦奇数年度開講。02DH431と同一。
01DE432	異文化言語教育教材論IIB	2	1.5	1・2					言語教材の開発と第二言語習得研究の関係について、教材の評価等の観点から具体的に考察する。	西暦奇数年度開講。02DH432と同一。
01DE455	異文化言語演習(1)IIA	2	1.5	1・2					本授業の目的は、(a)APAスタイルによって、論文執筆をするための表現練習を行い、(b)論文での表現力を高めるためのコーパスその他の検索ツールを学ぶことである。	西暦奇数年度開講。02DH455と同一。
01DE456	異文化言語演習(1)IIB	2	1.5	1・2					本授業の目的は、(a) 英語論文/資料の要約方法を学び、(b) 研究メモ/資料から実際の論文を執筆する手法を学ぶことである。毎回の課題提出と添削から、実際の論文執筆に即して、こうした点を具体的に学んでいく。	西暦奇数年度開講。02DH456と同一。
01DE459	異文化言語演習(3)IIA	2	1.5	1・2					特定の状況・脈絡において使用されるドイツ語表現を分析し、その意味論的・実用論的機能を考察する能力を身につける。特に、機能語とされる表現が文内・テキスト内で果たす意味論的機能について、他の類似的・相補的な表現と比較しながら検討する。	西暦奇数年度開講。02DH459と同一。
01DE460	異文化言語演習(3)IIB	2	1.5	1・2					特定の状況・脈絡において使用されるドイツ語表現を分析し、その意味論的・実用論的機能を考察する能力を身につける。特に、実際に使用される表現が持つ、会話における機能について、他の類似的・相補的な表現と比較しながら検討する。	西暦奇数年度開講。02DH460と同一。
01DE463	異文化言語演習(4)IIA	2	1.5	1・2					中国語の文法に関する論文を読み進めながら、中国語の諸現象について考える。問題設定の方法や分析の手順など、研究方法を学ぶこともこの授業の目的の一つである。	西暦奇数年度開講。02DH463と同一。
01DE464	異文化言語演習(4)IIB	2	1.5	1・2					中国語の文法に関する論文を読み進めながら、中国語の諸現象について考える。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法を学ぶこともこの授業の目的の一つである。	西暦奇数年度開講。02DH464と同一。
01DE479	異文化言語演習(2)IIA	2	1.5	1・2					コンピュータ、情報通信技術(ICT)を活用したダイナミックな外国語教育の理論と実践に関する文献を講読し、近年のComputer-Assisted Language Learning (CALL)、Technology Enhanced Language Learning (TELL)、およびe-Learningの背景となる理論を教育工学的視点から理解する。	西暦奇数年度開講。02DH485と同一。
01DE480	異文化言語演習(2)IIB	2	1.5	1・2					最近のComputer-Assisted Language Learning (CALL)における実践研究に着目し、学生自身のPCを活用しながら多くのハンズオンを実施し、高等教育機関の授業におけるICTスキルの向上を目指す。	西暦奇数年度開講。02DH486と同一。
01DE481	言語コミュニケーション論A	1	1.0	1・2	春AB	水4		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講読をもとにを討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。	01DQ080, 01DR736と同一。
01DE482	言語コミュニケーション論B	2	1.0	1・2	秋AB	木3		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講読をもとにを討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。	01DQ083, 01DR737と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE483	相互行為論A	1	1.0	1・2	春AB	金3	人社A201	高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。	01DR734と同一。
01DE484	相互行為論B	2	1.0	1・2	秋AB	金3	人社A201	高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。	01DR735と同一。
01DE621	異文化言語習得論-21A	1	1.0	1・2	春AB	月2	人社A721	卯城 祐司	本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が英語の「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを探り、その応用として教室における英語リーディング指導の在り方を検証する。	西暦偶数年度開講。 02DH621, OABALA1と同一。
01DE622	異文化言語習得論-21B	1	1.0	1・2	秋AB	月2	人社A721	卯城 祐司	本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に、英語の「読み」の理論と実践研究にかかわる諸問題を考察していく中で、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、外国語習得理論および英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザイン、さらには、理論に基づく教室における英語リーディング指導の在り方を学んでいく。	西暦偶数年度開講。 02DH622, OABALA2と同一。
01DE623	異文化言語習得論-211A	1	1.0	1・2					本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。最新の文献から、英語リーディングおよび心理学など関連分野の理論を学び、特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が英語の「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを検証する。	西暦奇数年度開講。 02DH623, OABALA3と同一。 2020年度開講せず。
01DE624	異文化言語習得論-211B	1	1.0	1・2					本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に、英語リーディングおよび心理学など関連分野の理論を学び、英語の「読み」の理論と実践研究の諸問題を考察し、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザイン、理論に基づく教室における英語リーディング指導の在り方を学んでいく。	西暦奇数年度開講。 02DH624, OABALA4と同一。 2020年度開講せず。
01DE625	異文化言語教育評価論 I-2A	1	1.0	1・2	春AB	木4	人社A721	平井 明代	本講義では、コミュニケーション能力とはどのような能力で構成されているのか、さまざまな言語モデルに触れ、その構成されている概念に関する知見を深めることを目標とする。これらの構成概念の中で、日本人学習者にとって重要と思われる語彙や文法能力を如何にコミュニケーションの中で使えるようになるかについて、モデルを基礎、講義や討論を交えながら、その理論と教授法についての知識を深める。そしてそれを如何に評価していくかを考察していく。	西暦偶数年度開講。 02DH625, OABALC1と同一。
01DE626	異文化言語教育評価論 I-2B	1	1.0	1・2	秋AB	木4	人社A721	平井 明代	技能統合的タスクやパフォーマンス能力に関する理論と指導方法を踏まえ、その評価方法の知識を習得することを目標とする。具体的な技能統合的タスクの事例を上げ、それぞれのタスクが、どのような現実のコミュニケーション能力に効果があるかを議論することによって、その理論と指導法の知識を深めることを狙いとする。その後、それぞれのタスク講義と討論を交えながら、その理論と教授法についての知識を深める。その後、それらのタスクを如何に評価していくかを考察していく。	西暦偶数年度開講。 02DH626, OABALC2と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE627	異文化言語教育評価論 I1-2A	1	1.0	1・2					本講義では、4技能の伸びや授業の進み具合の評価についての理論とその評価手法について学んでいく。中でも生徒の学習状況を知るため、また、成績を付けるためにテストを実施することは不可欠である。そのテストを作成する際のようなことに気をつけて作成すればよいのか、テストによって派生する効果について講義と討論をとして知識を深めることを目標とする。特に、大学入試改革における現状のテストで求められる能力、その能力を身につけるためのテストと評価のあり方を考えていく。	西暦奇数年度開講。02DH627, OABALC3と同一。 2020年度開講せず。
01DE628	異文化言語教育評価論 I1-2B	1	1.0	1・2					本講義では、教授方法の違いによる言語の伸びの測定や認知能力の心理測定についての理論を学んでいく。古典的テスト理論から項目応答理論、効果量の測定、一般化可能性理論、構造方程式モデリング、メタ分析などさまざまな現代のテスト理論とその手法について関連文献を読み進めながら知識を深めていくことをねらいとする。その中で必要な統計手法の実践や実際にその手法が使用されている文献を探ることで、理論だけでなく実際に研究に応用できるようになることを目指す。	西暦奇数年度開講。02DH628, OABALC4と同一。 2020年度開講せず。
01DE653	異文化言語演習(1-2) IA	1	1.0	1・2	春AB	木3	人社 A721	磐崎 弘貞	本講義では、語彙指導を中心に据えながら、英語教育学分野における実践的な手法を、その理論的背景と共に理解することを目指す。先行研究および授業ビデオを活用しながら学び、4技能5領域における幾多の授業手法が、どのような原理に基づいているのかを解明することで、授業実践に係る原理と効果的な指導法を理解していく。さらに、こうした点を授業実践力育成の観点からグループ・ディスカッションをすることによっても、理解を深める。	西暦偶数年度開講。02DH653, OABALB1と同一。
01DE654	異文化言語演習(1-2) IB	1	1.0	1・2	秋AB	木3	人社 A721	磐崎 弘貞	本講義では、英語教育における統語構造および語彙文法の学習を、いかにコミュニケーション活動と統合して、実践していくかを学んでいく。そのために、取り上げる統語構造および語彙文法を、先行研究における指導上の留意点および英語学の観点から学び理解を深めた上で、Focus on Formの枠組みを用い、そうした事項をいかに効果的なコミュニケーション活動に落とし込んでいくかについて学ぶ。このために、グループディスカッションも取り入れ、理論・実践の両面から理解を深める。	西暦偶数年度開講。02DH654, OABALB2と同一。
01DE655	異文化言語演習(1-2) IB	1	1.0	1・2					本講義では、英語教員および英語研究者として必要な学術的表現力、特にアカデミック・ライティング力を向上させることを目指す。このために、(a)学術領域におけるライティングの日英語の発想の違いを理解し、(b)論文執筆に必要なreferencesおよびオンライン/オフライン・コーパスの検索技術を理解し、(c)英文要約の効果的な手法を理解した上で、(d)APAスタイルで英文を執筆する手法と推敲方法を学んでいく。このために、毎回の事前課題提出および授業内のディスカッションを重視して、こうした点の理解を深める。	西暦奇数年度開講。02DH655, OABALB3と同一。 2020年度開講せず。
01DE656	異文化言語演習(1-2) IIB	1	1.0	1・2					本授業では、先行文献における英文実証研究を参考にしながら、リサーチ内容を発表する上での、効果的なプレゼンテーション手法について理解を深める。そのために、国際学会での発表を念頭に、APAスタイルでのリサーチ概要のまとめ方、議論の組み立て方、学術用語の定義、難解表現のパラフレーズ、効果的なスライド作成、メモを読まずにスライド上のキーワードを基に発表する手法、効果的なアイ・コンタクトについて、実践的に練習を行い、ピア・フィードバックも交えて発表スキルを高めていく。	西暦奇数年度開講。02DH656, OABALB4と同一。 2020年度開講せず。
01DE677	異文化言語演習(2-2) IA	1	1.0	1・2	春AB	火2	人社 A721	小野 雄一	本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、多読、多聴、語彙、発音についての教室外学習、ダイアログ、日記、オンライン素材、ゲーミフィケーション、ソーシャルメディア、交流サイトについて概観する。	西暦偶数年度開講。02DH677, OABALD1と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DE678	異文化言語演習(2-2)IB	1	1.0	1・2	秋AB	火2	人社A721	小野 雄一	本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、PBL学習、PBL協働学習、自律的学習、エロロジー、ビデオ制作についての教室外プロジェクト、海外研修、異文化遭遇、教員養成、文化的利益、ホームチューターなど母語話者との交流について概観する。	西暦偶数年度開講。02DH678, 0ABALD2と同一。
01DE679	異文化言語演習(2-2)IIA	1	1.0	1・2					本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、コンピュータを活用した学習、CALLからTELLへ、デジタルという文脈、ハードウェアの役割、リスニングスキル、スピーキングスキル、リーディングスキル、デジタルテキストについて概観する。	西暦奇数年度開講。02DH685, 0ABALD3と同一。2020年度開講せず。
01DE680	異文化言語演習(2-2)IIB	1	1.0	1・2					本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、ライティング支援、協働ライティング、視覚情報の役割、マルチモーダルな学習、仮想的な学習環境、協働的プレゼンテーション、若者とテクノロジー、安全と子供たちの保護について概観する。	西暦奇数年度開講。02DH686, 0ABALD4と同一。2020年度開講せず。
01DE691	英語教育学プロジェクト演習-21A	1	1.0	1・2	春ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の主指導学生に限る。西暦偶数年度開講。0ABALZ1と同一。
01DE692	英語教育学プロジェクト演習-21B	1	1.0	1・2	秋ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子		各教員の主指導学生に限る。西暦偶数年度開講。0ABALZ2と同一。
01DE693	英語教育学プロジェクト演習-21IA	1	1.0	1・2					この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	西暦奇数年度開講。各教員の主指導学生に限る。0ABALZ3と同一。2020年度開講せず。
01DE694	英語教育学プロジェクト演習-21IB	1	1.0	1・2					この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	西暦奇数年度開講。各教員の主指導学生に限る。0ABALZ4と同一。2020年度開講せず。